



キーマラ | Keemala | タイ/アユタヤ

物語を紡ぐ、森のリゾート。よらうな家で。

あなたはブーケット島について、なにを知っているだろうか。タイ南部に位置する、国内最大の島であることだろうか。アングマン海に面する、タイを代表するリゾート・アイランド、あるいはエメラルドの海と真っ白な砂浜の美しさから「アングマン海の真珠」とたたえられる、世界有数のバカンスの島であることだろうか。

もちろん、あなたがホテル好きなら、西海岸のエリアに「アマンプリ」など世界的なビーチ・リゾートが存在している事実はご存じだろう。ラグジュアリー・リゾートが立ち並ぶバンタオ・ビーチも、きっと訪れたに違いない。

しかし、ブーケットが海やビーチだけを求めて行くべき島だと思っていたら、それは大きな誤解である。碧い海に囲まれたこの島も、島の面積の8割は山からなる。ビーチに心地よい潮風が吹くように、緑の深い熱帯雨林の山にも、新鮮な酸素を取り込んだ気持ちのよい風が木立の間を通り抜けていくのだ。そんな森の息吹きで胸を満たしながら、山の中腹からビーチを望めば、眼下に広がるのはまさに絶景。その魅力を知らずにブーケットを訪れたとしたら、それは実にもったいない話だ。

昨年オープンした「キーマラ」は、そんなブーケットの知られざる魅力を伝える、新発想の「森のリゾート」である。島随一の繁華街が広がるパトシ・ビーチの北にある、静かなカマラ・ビーチから山側にクルマで5分。突如目の前に現れる、プリミティブかつ近未来的なリゾートの姿には、きつと誰もが驚きの声をあげるだろう。不思議な魅力を放つ「キーマラ」物語、第一章の驚きはその後何度も繰り返される。

旅人がまず目にするのは、原始的なのにどこか近未来的な、なんとも不思議な景観だ。ヴィラがタイプごとに集落をなし、森の緑に溶け込む。

WONDER
HOTELS



ス/の達人、ノックによる「インテグレイティブ・タイ・ボディワーク」はタイ古来の道具も使う。90分5,300バーツ

微笑みの温らしく、笑顔が絶やさないスタッフたち。レセプション前の床に広がる、鮮やかなモザイク画も印象的。

WONDER
HOTELS



左:昔ながらのタイの生活では水牛は家族同然。毎朝1時間、敷地にお目見えする。右:5つ星ホテルを流り歩いた料理シェフの料理は、健康的なタイ&ワールドキュイジーヌ。朝食はビュッフェだが日替わりメニューも。



客室プールとは別に、ゆったりとしたスイミングプールもある。もちろんバーも設置。

910/98 Moo 6, Nakasud Rd., Kamala, Kathu District, Phuket, 83150, Thailand
 ☎+66 (0) 76-358-777 全38室
 フリー・プール・ハウス27,750~30,700バーツ、クレイ・プール・コテージ22,600~34,450バーツ、テント・プール・ヴィラ25,050~28,150バーツ、パース・ネスト・プール・ヴィラ30,050~33,200バーツ 朝食付き
 アクセス:プーケット空港からクルマで約40分(送迎サービスあり、往復2,000バーツ) www.kemala.com

正面の門を抜け、勾配の急な上り坂をカートで進むと、レセプションのある敷地中央のロビー棟に到着する。チェックインを済ませ、その足でまずロビー棟から続く展望台スペースへ歩を進めると、いましがた見た巨大なアリの巣のようなフォルムの棟の最上階にいたことを理解する。パブリックの機能を集中させた棟の中でも最も印象的なこの高台の展望台からは、リゾートのほぼ全貌と遠くにかマラ・ビーチを眺めることができるのだが、その絶景には思わず息をのむに値しない。屋根の形状や外観のフォルムの異なる個性的な客室ヴィラは全4タイプ。それがタイブコに集落を形成して、その姿はまるで熱帯雨林に自生する植物のようにささる。この非日常感漂う美しい景色には、時間を忘れさせる魔力が秘められているようだ。ロビー棟より高台にある「パース・ネスト・プール・ヴィラ」のみここからは視認できないが、森に囲まれ舗装路でつながれたヴィラの群れを見ていると、その不思議で幻想的なムードに、ここが森の妖精が棲む場所だと言われたら信じがたい。

自然と健康を重視した、快適なリゾートライフを。

ビーチなしの戦略や、客室やパブリック棟のデザインなど、キーマラにはユニークな点が多々あるのだが、タイ人オーナーが海外の資本を入らず、建築デザイナーから使用するファブリックまで、すべて「メイド・イン・タイ」にこだわってこのリゾートを構築した姿勢もまた、プーケットでは珍しいものである。古きよきタイ人の暮らしに

想いを馳せつつ、モダンに贅沢にアップグレードしたキーマラでの滞在は、どんな高級なビーチ・リゾートでも太刀打ちできない魅力にあふれている。聞けば、客室のデザインコンセプトは、古の時代にプーケットを開拓した、架空の4つの部族をテーマに、それぞれを暮らしをかたちにしたものだという。大樹に宿るした家に住む。木の上の部族。の暮らしを表現した「ツリー・プール・ハウス」。土と粘土に愛着を示す。大地の部族。の「クレイ・プール・コテージ」。放浪の旅を愛す。遊牧の部族。の「テント・プール・ヴィラ」。鳥の巣のような家に住む。果の部族。の「パース・ネスト・プール・ヴィラ」。外観だけでなく、内観もそれぞれのテーマをもとに個性豊かにデザインされた客室は、妙な演出感もつくり込み感もなく、自然との一体感を感じ取らぬままに、声高に自然との共生やオーガニックなライフスタイルを表明しなくても、こうした細部の積み重ねで、ゲストはこのリゾートの根幹をなす想いを自然と知るようになるのだ。

スパや食事のメニューも健康面に気を配り、とても充実しているキーマラ。自然豊かで健康的な森のリゾートとしての魅力を余すところなく引き出した泊まり心地には、ホテル滞在の質と神髄が凝縮されている。プーケットの新名所「キーマラ」。

ロビー棟の様に、日本に
あったような作りかたの
様子が残る。ファットマン
ムヤブティック、グレイ
リーなどが集結する。



ツリー・プール・ハウス

ree Pool House

大空に憧れ、大樹に吊るした家に住む“木の上の部族”の暮らしを表現した「ツリー・プール・ハウス」は唯一のメゾネットタイプ。ベッドルームとリビングで階が分かれる。全7室。



1. キーマラのベッドはすべてキングサイズで、蚊帳付きのデザイン。写真のようにセパレートでも使えるので便利だ。2. 壁を設けずにガラス張りにしたことで森をより身近に感じる下階のリビングには、外にプールを設置。プール脇にはハンギングチェアが吊るされている。3. 半円形のプールでのんびり。野鳥の鳴き声も自然のBGMだ。



木からしたたり落ちる水をイメージした、2階建てならではの個性的な外観。木の表情も美観を高める。

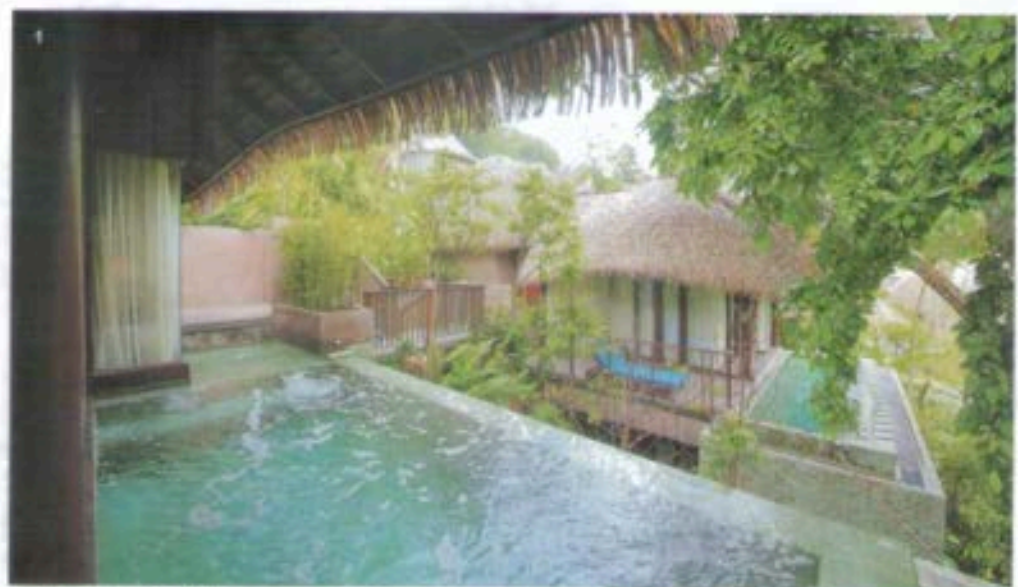
クレイ・プール・コテージ

ay Pool Cottage

大地とのつながりを大切にし、土と粘土に愛着を示す“大地の部族”の「クレイ・プール・コテージ」。1ベッドルームタイプ14室と2ベッドルーム2室の計16室と最多のタイプ。



窓から豊かな光が照らす、美しい佇まいのバスルーム。扉は扉室に続き、右には屋外シャワーが付いている。



1. プライベートプール越しに隣のヴィラが見えるが、音も視線も気にならない。2. ケメックスのコーヒーメーカーやミルが入ったバスケットは、ピクニックに持ち出し可能。カマラ・ビーチへは1時間に1本、トゥクトゥクの送迎サービスがある。粘土を使った壁のレリーフが、部族の証し。3. シックな寝室。



テント・プール・ヴィラ

Tent Pool Villa

冒険心にあふれ、ノマドのように放浪の旅を続ける“遊牧の部族”の「テント・プール・ヴィラ」は全7室旅を念頭にデザインしたそうだが、仮住まいの面影は微塵もない本格派。



1. テントの形状を屋根で表現した外観が真影を放つ。2. 寝室のインテリア。男らしきでは「クレイ・プール・コテージ」と双輪か。右のガラス窓越しにテント暮らしを彷彿させる。半屋外のリビングが見える。3. 広々としたバスルームにも森の緑があふれる。窓の向こうには、プールサイドテラスが設けられている。4. 野趣あふれるインテリアがノマド気分を否定なく盛り上げる。寝室側の半屋外リビング。トランクを代用したテーブルも使い出し。

バース・ネスト・プール・ヴィラ

Bird's Nest Pool Villa

知性と創造性に優れ、鳥の巣のような家に住む“鳥の部族”の「バース・ネスト・プール・ヴィラ」はリゾート随一の高台に立つ。建築デザイナーの遊び心が随所にあふれる全8室。



左: キングサイズのベッドからプール越しに海を眺めることができるのも、このヴィラの特徴。賢い設計だ。右: バスルームの窓近くに置かれた、巨大な石を丸く切り出したようなバスタブ。カマラ・ビーチの絶景とともに入浴を楽しむ。

バスルームには、オーバーヘッドシャワーならぬモンズーンシャワーが。快適を生む設置のオンパレードに感動の正。



竹を編み上げたような外観は、鳥の巣であり露のようでもある。ウッドデッキのプールテラスも実に優雅。